

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東北大学	整理番号	Q02
プログラム名称	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	長坂 徹也

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、海外・企業・プログラム内の3種類のインターンシップ全てを必修とするという特徴的な取組をはじめとして、ネイティブスピーカーの外国人教員による英語研修（グローバルコミュニケーションスキル研修）、博士論文テーマとプログラム内インターンシップに基づく2種類の異なるテーマのオーバービューの実施、企業の学外審査員が加わって開催するQE1・QE2による質保証等により、物質を俯瞰的に捉えることができるグローバルな博士人材を育成する高度な学位プログラムが構築されたことは十分評価できる。また、中間評価、プログラムオフィサー、外部助言委員会等の指摘に真摯に対応し、履修生の負担緩和やメンタルケアに取り組み、アントレプレナー教育を組み込むなど、プログラムが着実に改善されたことも評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、学術論文数、受賞数、日本学術振興会の特別研究員（DC）採用者の割合等により履修生の研究レベルの高さが示されており、また、令和元(2019)年度修了予定者も含め7割以上の修了者が民間企業に就職することは、多様なキャリアパスに関する教育効果の現れとして評価できる。一方、グローバルリーダーの育成には多様性も重要であるという観点から、これまで入学選考の段階で受け入れてこなかったアカデミア志向を持つ学生も、今後は入学選考の段階で一定の割合で取り込んでいくことを期待したい。修了者が3種類のインターンシップや北海道大学「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム」との合同シンポジウム等を通じて構築した人的ネットワークの価値は高い。これを活用すべく、整備されつつあるメーリングリスト等により、修了者間及び、修了者と履修生をつなぐネットワークを長期にわたり活用していくことが期待される。

事業の定着・発展については、全学組織である学位プログラム推進機構のリーディングプログラム部門に「マルチディメンジョン物質理工学教育研究センター」として存続し、総長裁量経費等により、定員10名程度を募集することが決定していることは評価できる。本プログラムが、学位プログラム形式の教育の全学推進体制の構築に与えた波及効果は大きい一方で、本プログラムへの応募者数は減少しており、今後も安定的に人材を輩出できるかどうか懸念される。応募者数減少の原因をしっかりと分析し、プログラムの魅力を学内外に継続的に発信し続けることを期待する。